

正木美術館
(忠岡町)

ザ・見遊じあむ

68



ミュージアムメモ

▶所在地/大阪府泉北郡忠岡町忠岡中2-9-26 ▶交通/南海本線「忠岡」駅下車徒歩15分 ▶開館時間/10時~16時30分(入場は4時まで) ▶休館日/水曜日 ▶入場料/一般700円、大高生500円、小中学生300円 ▶連絡先/0725-21-6000



隣接する旧正木邸には和風庭園があります

中国画に魅せられた蒐集家が築いた
「中世禅林文化の宝庫」

忠岡町の事業家・正木孝之氏(1895~1985)が蒐集した日本と中国など東洋の古美術品を展示しています。収蔵品は1200点にのぼり、国宝が3点、重要文化財が12点あります。鎌倉、室町時代の水墨画や墨蹟が豊富で「中世禅林文化の宝庫」として有名です。正木氏の美術品蒐集は25歳の時から始まりです。最初は竹内栖鳳や富岡溪仙など日本画家の作品を集めました。次は富岡鉄齋の絵を集めました。そのとき正木氏は一つの中国画に魅せられました。元時代(13世紀)の文人画家・銭舜挙が

描いた「果瓜秋虫図」という30センチ四方の絵です。当時(1945年)で1000円の値段がついていましたが、正木氏はそれまで集めた日本画をすべて売り払って購入しました。この中国画との運命的な出会いが東洋古美術を蒐集する原点になったと言われています。

ます。美術館は1968年に正木氏の旧邸宅の隣りに建てられました。春と秋に特別展が開かれています。

長編
ドキュメンタリー映画「無言館」



絵画の前では無言になっても
戦争と平和に無言ではいけない

「無言館」館主の窪島誠一郎さんは、その画学生の残した作品、遺品を全国各地に訪ね、収集し、その作品を展示する「無言館」を創設しました。命あるすべてのものを大切にして生きていくことへの願いが描きかけた絵から聞こえてきます。今春、この「無言館」をテーマにした長編ドキュメンタリー映画が完成致しました。いま全国で上映活動が行われています。

映画は「無言館」館主の窪島誠一郎さんが、戦没画学生の作品収集に全国の遺族を訪ね歩いた軌跡とともに、作品から画学生たちの思いを伝えていきます。中学生たちと「無言館」とのふれあいや、「無言館」で毎年8月になると行われている、画学生たちの無念を弔う慰霊祭「千本の鉛筆」供養の様子も描かれています。「いまの時代だからこそ、彼らが生きてきた証を守ることで、いのちの大切さを戦争の知らない世代に伝えていかなければいけない」と窪島さんは語りかけます。

このシネマ ガラエイガ

大阪の戦跡を歩く

第67歩

皇居遙拝所 (松原市)



皇居遙拝(こうきょようはい)とは、戦前の日本と、日本が植民地化した中国・朝鮮で行われた、皇居の方角に向かって敬礼する行為のことです。天皇への忠誠を誓わせる運動として「君が代」の斉唱、「日の丸」の掲揚、「御真影」(天皇の写真)への敬礼とともに、各地で盛んに行われていま

した。当時、キリスト教団など遙拝を拒んだ人もいましたが、特高警察などによって逮捕、投獄されるなどの弾圧を受けました。現在も、大阪に多くの遙拝所跡が残っています。松原市の阿保神社にある遙拝所の石碑は、東西方向に穴が空いており、その前に立てば、ちょうど東を向いて「遙拝」ができるように造られています。

河内 和泉 三國誌

河内 和泉

高潮で壊滅した
ハンセン病療養所

68
(大阪市 西淀川区)



▲外島療養院の跡地に建つ記念碑



▶台風で壊滅した外島療養院

1934年(昭和9年)9月21日、室戸台風が大阪を直撃して、5メートルの高潮が湾岸部を襲いました。大阪市西淀川区の低湿地にあったハンセン病療養所「外島療養院」が壊滅して水没し、入所者173人が遭難、死亡。施設職員3人と家族11人が亡くなる悲劇をもたらしました。外島療養院は、ハンセン病患者を強制的に隔離することを定めた国の「癩予防二閣スル件」により、1909年(明治42年)に、近畿・北陸など2府10県が共同で設立しました。当初は高槻市に建てる予定でしたが、地元からの反対にあつて挫折。どこも受け入れる地域がなく、西淀川区外島という神崎川下流の海抜ゼロメートル地帯に追いやられるようにして建てら

れました。台風で療養院が壊滅した後、入所者は全国6つの療養所へ分散し、国は療養所の代替地を探しました。しかし「商都大阪に療養所の存在は許されない」と政財界が猛反発し、その後3年を経て、瀬戸内海の長島(岡山県)に代替地が決まりました。この地で再建された療養所が現在の邑久光明園です。1997年に「らい予防法」が廃止されたことを記念して、邑久光明園入園者自治会が、外島療養院の跡地に記念碑を設立しました。碑文には「強制収容絶対隔離ヲ根幹トシタ日本ノハンセン病対策ノ終焉ヲ記念シ、外島療養院ノ日々ニ思イヲハセ茲ニ記念碑ヲ建立スル」と記されています。

いまも心に響く
名詩・名歌・名語録

寒さにふるえた者ほど
太陽の暖かさを感じる

ホイットマン

アメリカの詩人、ホイットマン(1819~1892)の言葉です。「人生の悩みをくぐった者ほど、生命の尊さを知る」と続きます。貧しい家庭に生まれ、満身に教育を受けられないまま、植字工、小学校教師を経てジャーナリストになりました。しかしその後世に認められるまで、激しい人生の浮き沈みを体験したといえます。

誰だって、ほんとうにいいことをしたら
いちばん幸せなんだねえ

宮澤 賢治

東北・岩手出身の作家・宮澤賢治(1896~1933)の「銀河鉄道の夜」に出てくる言葉です。彼は、故郷の花巻で貧しい農民のために献身的に活動した思想家でもありました。著作「農民芸術概論綱要」では「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」とも述べています。